

24年4～12月期アス合材製造量

2.4%減2516万トン

日合協、4年連続減 石川、大阪など増

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）の調査結果によると、2024年4～12月に会員の841工場で製造したアスファルト合材の量は、速報値で前年同期比2.4%減の

2516万トンと過去最少を更新した。4年連続で減少となった。日合協は「製造量の増加につながる施策もなく、通期でも前年実績を下回るだろう」と見通している。

製造数量の内訳は、国土交通省や高速道路協会が発注する高規格道路用に多い新規材が0.1%減の630万トン、主に地方自治体が発注し一般道の整備や修繕などで使う再生材は3.1%減の1885万トン。製造数量に占める再生材の割合（再生合材製造率）は1.5%低下の74.9%だった。10地域別に見ると▽北海道（2.9%増）▽北陸（4.7%増）▽近畿（1.9%増）▽九州（1.4%増）▽沖縄（0.0%増）の5地域が増加し、▽東北（6.2%減）▽関東（4.7%減）▽中部（6.2%減）▽四国（0.2%減）の5地域が減少した。中部と並んで減少幅が最も大きかった東北は、青森を除く5県が2年以上連続

で減少。都道府県別では山形県が23.1%減と47都道府県で最も大きく落ち込んだ。最も増加幅が大きかったのは石川県の33.5%増。能登半島地震の復興工事で合材需要が伸びたことなどが背景にある。このほか、大阪府も大阪・関西万博の

工事に関連して11.5%増となった。合材工場の稼働率は全国平均が32.7%と前年度同期から0.4%低下した。地域別では10地域中5地域が前年同期を上回った。

